

# 博物館だより



〔収蔵資料紹介〕<sup>うちじまほくろう</sup>内島北朗作 <sup>あめゆうようへん</sup> 飴釉窯変茶碗（越中瀬戸焼）

（明治中～昭和後期頃、銘「有磯海」、径 13.1cm × 高 7.1cm）

越中瀬戸焼は、江戸期より作られ始め、富山県内各所に陶窯がありました。本資料は、含有鉄分によって飴色（黄褐色ないし茶褐色）になってあらわれる高火度釉（飴釉）でおおわれています。このほか焼成中に偶然あらわれる釉色や釉相（窯変）を見ることができます。

内島北朗（1893～1978。本名・喜太郎）は、高岡市川原町出身の俳人・陶芸家です。俳句は、明治43年（1910）河東碧梧桐<sup>かわひれへき ごとう いっだい たけ かど</sup>や筏井竹の門、のちに萩原井泉<sup>おぎわらせいせん</sup>水にも学びました。陶芸は、大正6年（1917）六世・尾形乾山<sup>けんざん</sup>に学び、商工展や帝展に出品、入選・受賞を重ねました。また、句集『光芒』<sup>こうぼう</sup>や随筆集『壺中随筆』<sup>ちゆうちゆうずいひつ</sup>ほか多数の著書が出版されています。享年84。

## 博物館の収蔵資料情報がインターネットで検索・閲覧できるようになりました

「収蔵資料検索システム —あなたの家が博物館—」公開開始

博物館では、国の「緊急雇用創出事業」の補助金を活用し、「デジタルアーカイブ推進事業」を進めてきました（2010年10月～2013年3月）。当館の全収蔵資料（2012年度末現在で約2,600件）について調査・整理・撮影を進めながら、資料の個別台帳の整備、資料情報のデジタル化をおこなってきました。

これら収蔵資料情報をインターネットに公開し、高岡市民をはじめ研究者など博物館を利用する多くの方々に対して、資料及び資料情報の幅広い利活用を目指すべく、2012年10月18日、「収蔵資料検索システム —あなたの家が博物館—」の運用開始式が博物館でおこなわれ、全収蔵資料情報のうち100件のインターネット公開が始まりました。本収蔵資料検索システムの導入は、富山県内の博物館施設においても例がありません。

資料検索の方法には、大きくわけて「分類を選んで検索する」（歴史・美術・民俗・考古・写真の5分野）「条件を入力して検索する」（キーワードで検索・詳しい条件で検索）の2つの方法があり、画像や資料解説など個別の資料情報の閲覧ができます。今後も、随時資料情報の追加・更新をしていきます。



システム運用開始式(10月18日)



システム 資料詳細画面

## 高岡ゆかりの<sup>いかだ い たけ かど</sup>筏井竹の門、<sup>みながわ き えん</sup>皆川淇園の掛軸 長崎から高岡へ里帰り

寄贈者・松澤君代氏へ市長感謝状の授与

2013年2月7日、高岡ゆかりの掛軸2点を寄贈した松澤君代氏へ市長感謝状が贈られました。当館へ寄贈された掛軸は、<sup>いかだ い たけ かど</sup>筏井竹の門筆「珊瑚樹」1点と<sup>みながわ き えん</sup>皆川淇園筆「保居叙欽」1点です。

筏井竹の門(1871～1925。金沢出身)は、高岡で活躍した俳人・俳画家で和歌もよく作った人物です。明治25年に高岡に転居、「高岡新報」へ盛んに俳句を投稿するなど、俳句・俳画で多くの作品を残しています。資料本紙には、珊瑚樹（スイカズラ科の常緑小高木。8～9月頃熟した赤い実がなる）が描かれ、<sup>らっかん</sup>落款「壬戌八月 竹の門生」と印章「四石」があります。

皆川淇園(1734～1807。京都出身)は江戸時代の儒学者・漢学者です。また、高岡町の町年寄で淇園の門弟でもある富田徳風や寺崎蛸洲らと交流があり、高岡大仏寺にある時鐘（市指定文化財）の銘文を書いた人物でもあります。資料本紙には、「保居叙欽」と墨書され、落款「皆川愿書」、印章「皆川/愿印」・「味/義根」があります。

両資料は、2013年2月9日からの館藏品展「未来へつなぐ高岡のお宝 —新収蔵品を中心に—」で展示・紹介しています（～5月6日まで。入館無料）。



珊瑚樹



保居叙欽



市長感謝状贈呈式(2月7日)

## 平成24年度の高岡市立博物館

7月より開催した特別展「高岡の工芸資料 ―たかおか物産案内―」では、昭和45年（1970）開館の当館が所蔵する、金工や漆芸、陶芸など工芸に関する資料を展示・紹介しました。2月からの館藏品展「未来へつなぐ高岡のお宝 ―新収蔵品を中心に―」では、当館が近年新たに収蔵した資料や、これまで展示する機会の少なかった資料約70点を5月6日まで展示しています。

また、10月18日より当館の収蔵資料情報をインターネットで検索・閲覧できる「収蔵資料検索システム ―あなたの家が博物館―」の公開が始まりました。今後、随時収蔵資料情報を追加・更新していきます。

郷土学習講座では、「高岡ならではの話」をテーマに、高岡の歴史・民俗・伝統産業について、当地「ならではの」話題について各研究者よりご紹介いただきました（計5回開講）。そのほか、桜の開花時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」、30分間のショートレクチャー「土曜おもしろ講座・高岡のみじかい話」、呈茶の会「松聲庵」（4月、11月）、ワークショップ「切り紙でシシガシラをつくろう！」（4月）、ミニ企画展「むかしの人はどんな道具を使っていたの？」（6月）、「たかおか歴史探検隊！きみも1日学芸員になってみよう」（8月）、古文書講座「初めての古文書教室」（10月～3月。計6回）を開催しました。



屋上開放「古城公園展望台」（4月19日）



「きみも1日学芸員になってみよう」（8月25日）



古文書講座「初めての古文書教室」（2月28日）

## 特別展 「高岡の工芸資料 ―たかおか物産案内―」

会期：2012年7月28日（土）～10月14日（日）

この展覧会では、当館所蔵の金工（金属工芸）、漆芸、陶芸、富山県工芸学校（今の県立高岡工芸高校）に関する資料約120点を展示し、高岡の工芸・産業の歴史について紹介しました。

「1. たかおか物産案内」では、明治42年（1909）の高岡物産陳列所の創設から高岡市商工奨励館（今の高岡市デザイン工芸センターの前身）へと移行する過程について、リーフレットや写真資料を展示しながら紹介しました。「2. たかおかの陶芸」では、「古府焼」（こふやき 内藤心月作。産地・高岡市伏木）などの陶芸資料を展示しながら、江戸期以降に高岡で行われた陶器生産の特色について紹介しました。「3. たかおかの漆芸」では、江戸末期から現代にかけて高岡で活躍した石井勇吉や堀江是閑、高瀬想風らが制作した資料を展示し、漆芸技法などについて紹介しました。「4. たかおかの金工（金属工芸）」では、明治から昭和期にかけて制作された資料や高岡銅器下図を中心に展示し、鑄造・彫金技法などについて紹介しました。「5. 富山県工芸学校」では、生徒および指導教諭らが残した絵画・工芸資料を展示しながら、明治27年の創設以来、富山県内初の工業系学校として発展を続ける当校の歩みについて幅広く紹介しました。



高岡彫刻塗 鯛菓子器  
（布目光逸作。昭和37～38年頃。当館蔵）



# 高岡市立博物館 スケジュール 2013年4月～2014年3月

イベントスケジュール		展示	
		展示	イベント・講座
4月	4/2 (通年開催) 常設展「高岡城跡のふかしの人はどんな道具を使っていたのか」	4/2 常設展「高岡城跡のふかしの人はどんな道具を使っていたのか」	4/13 呈茶の会「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」(春) 4/29 ワークショップ「切り紙で千石船をつくろう!」
5月		5/6 常設展「高岡城跡のふかしの人はどんな道具を使っていたのか」	5/18 郷土学習講座(1)「前田利長の生涯を憶う」
6月		6/1 企画展「おまかせのふかしの人はどんな道具を使っていたのか」	6/8 郷土学習講座(2)「武将・前田利長の戦歴」
7月		7/27 特別展「たかおか町絵図探訪!」	7/13 郷土学習講座(3)「高岡城跡詳細調査の成果について」
8月			8/24 ワークショップ「たかおか歴史探検隊! きみも一日学芸員になってみよう」
9月			9/7 郷土学習講座(4)「お墓から読み解く前田利長公」
10月			10/5 特別展講演会「前田利長と城下町高岡」
11月			11/9 「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」(秋) 11/16 郷土学習講座(5)「国宝・瑞龍寺の魅力と七間浄頭・浴室の復元」
12月			
1月			
2月		2/8 館蔵品展	
3月		3/30 館蔵品展	

## ◆呈茶の会「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」

柔らかな日差しが降り注ぐ森の中の古いお茶室で、本格的なお茶席をお楽しみいただけます。茶室見学会終了後は、博物館屋上から古城公園の眺望を楽しめます。公園へのお散歩がてら、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。



日時：4月13日(土)、11月9日(土)  
両日とも午前10時～午後3時

参加料：400円(お茶とお菓子)

※茶券は当日博物館受付で販売します。

茶室見学会：①午前11時～ ②午後2時～ (無料)

常設展示説明会：①午前11時30分～ ②午後2時30分～ (無料)

## ◆特別展「たかおか町絵図探訪!」

会期：2013年7月27日(土)～10月14日(日)[69日間]

慶長14年(1609)の開町以来、高岡では多くの町々が形成されていきます。前田利長入城時は、加越能三国の藩内をはじめ、尾張・山城・近江・越後・信濃などから630人余りの町人(商人や職人など)が集まり、町がつくられました。利長の死後、三代利常は、高岡を城下町から商工業の町へと転換し、問屋、米蔵・塩蔵などをおいて物資を集散させ、武家屋敷跡には新たな町人の移住をすすめるなど、町の繁栄をはかりました。本展では、当館が所蔵する近世～現代における町絵図、地図などを展示し、高岡の町々の成り立ちや歴史について紹介します。(入館無料)

### ○特別展講演会「前田利長と城下町高岡」

日時：2013年10月5日(土) 午後2時～3時30分

講師：見瀬和雄氏(金沢学院大学文学部歴史文化学科教授)

会場：当館(新館)3階講堂

定員：先着50名(申し込み不要)

受講料：無料



高岡市街鳥瞰図(部分)  
(吉田初三郎筆。昭和7年。当館蔵)

## ◆前田利長400回忌記念 郷土学習講座

「いま光り輝く 前田利長のすべて」(全5回)

高岡の町を開き、高岡城を築いた前田利長没後400年にあわせて開催。各分野の研究者よりご紹介いただくシリーズ講座です。

[第1講]「前田利長の生涯を憶う」

講師：樽谷雅好氏(高岡市児童文化協会副会長)

日時：2013年5月18日(土) 午後2時～午後3時30分

[第2講]「武将・前田利長の戦歴」

講師：古岡英明氏(越中史壇会会員)

日時：2013年6月8日(土) 午後2時～午後3時30分

[第3講]「高岡城跡詳細調査の成果について」

講師：田上和彦氏(高岡市教育委員会文化財課主事)

日時：2013年7月13日(土) 午後2時～午後3時30分

[第4講]「お墓から読み解く前田利長公」

講師：栗山雅夫氏(奈良文化財研究所企画調整部)

日時：2013年9月7日(土) 午後2時～午後3時30分

[第5講]「国宝・瑞龍寺の魅力と七間浄頭・浴室の復元」

講師：上野幸夫氏(職藝学院教授・高岡市文化財保護審議委員)

日時：2013年11月16日(土) 午後2時～午後3時30分

[いずれも] 会場：当館(新館)3階講堂

定員：先着50名(申し込み不要)

受講料：無料

— 開館時間 —  
午前9時～午後5時  
(入館は4時30分まで)

— 休館日 —  
毎週月曜日  
(月曜日が祝・休日の場合はその翌平日)  
年末年始  
(12月29日～1月3日)

— 交通 —  
JR高岡駅より徒歩15分

— 入館無料 —